

■はじめに

沖縄へ行ったのは、1995年の米兵による少女暴行事件の前後に3回家族旅行で行ったのが初めてでした。リゾートホテルに泊まる観光旅行でしたが、レンタカーで国道58号線を走った時に、カーナビの画面の道路の両側が何も表示されないのを見て、これが米軍基地かと驚いたのを覚えています。この時沖縄が大揺れに揺れていたことも知りませんでした。

辺野古のことを知ったのは、藤本・影山監督の映画「ラブ沖縄」だったと思います。2004年のボーリング調査の阻止行動のドキュメンタリーで、その後政府が工事を中止して、辺野古のことはこれで終わったと思っていました。

2008年に娘が琉球大学に進学し卒業後も沖縄の会社に就職したことで、年に1～2回沖縄へ行くようになり、沖縄に関するニュースに耳を傾けるようになりました。2010年4月の「普天間基地の閉鎖・返還と国外・県外移設を求める県民大会」と鳩山首相の迷走、2012年のオスプレイの強行配備、三上監督の映画「標的の村」で初めて高江を知りました。2013年6月に娘に案内してもらって、初めて高江に行きました。道路脇のテントで話を聞き、その先のメインゲートで写真を撮っていたら中から米兵が出てきてこちらの写真を撮っていました。周りには英語で米兵へのメッセージの横幕がたくさん張られていました。今思えば話を聞いたテントはN4ゲート前で、N1ゲートはそのずっと先でした。

私の沖縄についての認識はこの程度でした。

■辺野古に出会う

2014年に事情があって一年間、月の半分を沖縄で過ごすようになり、辺野古の工事が再開されたと聞いて9月に見に行きました。ほんとに「見に行った」という感じでした。搬入ゲートの横の歩道にブルーシートのテントを張って、そこに数十人の人が座っていました=写真①。ちょうどお昼ごろだったので食べ物を勧められたりして和やかな雰囲気、30分くらいの滞在でしたが、帰り際に一言をと言われて、現地の状況を知らなかったこと、名古屋ではほとんど報道されないことを話し、帰ったら周りに伝えます、頑張ってください…と言いかけてましたが、そんな他人事のような言い方はとてもできなくて、頑張らましようと言ってその場を後にしました。

その後毎月一度は辺野古へ行くようになり、浜のテントで説明を聞いたり、ゲート前のテントでいろんな人の話を聞いたりデモをしたりしていました。この頃の搬入はおそらく朝一回だけで、私が行く時間帯には搬入は無く警察もいませんでした。

年が明けると、テントの位置が搬入ゲート横からメインゲート横に移動させられていて、さらにその次に行った時には沖縄総合事務局の「テント禁止」の立て看板が歩道に10mおきに立てられ、テントは歩道の外の斜面に移動し現在に至っています。

■辺野古新基地反対コンサート in 名古屋

半年間辺野古に通ううちに、名古屋でも何かできないだろうか考えるようになりました。私は学生時代にギターを覚え、名古屋に就職後も友人たちと細々と音楽活動を続けてきました。2001年に

音楽仲間に声をかけて「フォークキャンプリー」という、山の中の廃校を借りて一泊どまりの野外フェスティバルを始めました。現在は泊まりはやめましたが、名古屋市内で「フォーク Day キャンプリー」という名前で続けています。ここで知り合った人たちに声をかけて、辺野古新基地に反対するコンサートをやろうと思いつきました。2015年5月に実行委員会を立ち上げ、6/13に第一回コンサートを東山スカイホールで開催しました。本当は栄のど真ん中の公園でやりたかったのですが、どこへ申請すればいいかもわからず、とりあえず東山スカイタワーの中にあるホールを使うことにしたのですが、申請書類に「辺野古新基地反対コンサート」と書いたらスカイタワーの館長から、名称が政治的だから変えるようにと言われ、「辺野古コンサート」ではどうかと聞くと、「辺野古」という名前が政治的だと言われ、結局「平和とジュゴンを守るコンサート」という名称で申請しました。これには本当にびっくりし、怒れてきました。第二回の会場は鶴舞公園の普選壇でしたが、ここでも同じことを言われたので急遽「平和とジュゴンを守るコンサート」の旗も作り、会場によって使い分けることにしました=写真②。

■ゴボウ抜きされる

関電前で知り合ったKさんから、「ゲート前へ行くなら朝一で行かなきゃ」と言われ、第一回コンサート直後の6/22朝6時半と一緒にゲート前に座り込みました。10数人しかいなくて、ほんとに座り込むの？という感じで座り込んだら、沖縄県警の警察官（この頃は機動隊ではなかった）が一人ずつゴボウ抜きを始めました。この時は怒りもあったけど、ええっ！警察がほんとにこんなことするのか？という半信半疑の感じでした。

辺野古コンサートの実行委員会でこの話をしたら、行きたいという人が何人かいたので、この年（2015年）の12月に、私を含めて4人で沖縄へ行き、12/5早朝座り込みに参加しました。前月に警視庁の機動隊約100人が派遣されていて、ゴボウ抜きした後、ゲートの両側に囲い込んで拘束する間に搬入をしていました=写真③。搬入が終わり機動隊がキャンプシュワブの基地の中へ引き上げて行くのを見て、思わず「お前達はどこの国の警察なんだ！」と叫んでいました。本当に怒りでいっぱいでした。怒る相手は機動隊ではないことは分かっていますが、理屈だけではなくこの怒りが今の活動のもとになっていると思います。

■市民運動に出会う

学生時代はデモに参加していましたが、その後30数年間、デモや集会に参加することはなく、3.11後の脱原発集会にたまに参加するぐらいでした。会社勤めの間も、組合活動や市民運動には全く縁がありませんでした。2015年9月の二回目のコンサートの宣伝をするために、公会堂で開催されていた「戦争展」にチラシを持ち込んだ時に「命どう宝あいち」を紹介され、最終日の集まりで発言させてもらい、打ち上げまで参加して、一度にたくさんの人と知り合いました。今までまったく知りませんでした。9/19の戦争法強行採決の後には集会やデモがどんどん行われるようになり、戦争法反対、原発反対に加えて必ず辺野古新基地反対が掲げられるようになりました。私もコンサートのチラシを配りながら集会やデモに参加する中で、さらに多くの人と知り合いました。2016年5月1日の山城さんを招いての集会では実行委員会に参加し、前半コンサートで後半は講演という新しい形の集会で、今までにない楽しい集会になりました=写真④。辺野古のゲート前でもそうです

が、音楽は運動にとって必要なものだと感じています。音楽には単なる賑やかさではなく、みんなの心を和らげたり高揚させたりして気持ちを一つにしていく、大きな力があると思います。

市民運動に参加して思うことは、集会やデモや講演会などのイベントの参加者が一定以上は増えないということです。私は会社勤めの時は全く参加していませんでしたが、興味はあったのでアンテナは張っていたつもりですが、知りませんでした。また、参加するようになってからも、1、2回休むと次のイベントの情報が入ってこないということがありました。集会やデモに参加すれば、チラシなどで今後の予定がわかりますが、参加しないとわかりません。そもそも参加しない人に参加してほしいので、情報発信の仕方を考えなくてはいけないと思います。それは辺野古コンサートも同じで、チラシの作り方を変えたり配る場所を考えたりして、模索中です。

■おわりに

辺野古、高江の抗議活動の基本は「非暴力」「不服従」「直接行動」です。この「直接行動」が座り込みで、直接的に工事を止めるということです。デモも、韓国のように100万人集まれば直接行動になりますが、少ないと声をあげるだけになってしまいます。

そして一番重要なのは、自分の経験から言うと「現地へ行くこと」です。辺野古では、4/23~28の6日間連続500人集中行動を呼びかけています。これを機会に初めて行く人が増えればいいと思います。飛行機代はLCCを使うと新幹線で東京へ行くよりも安くて、私が今までで最も安かったのは、スカイマークで中部→那覇片道3,910円でした(^)/

名護市長選敗北やオール沖縄から経済人が離れたこと、翁長知事の病气や県知事選の不安、県民投票の是非などで不安なことは多いですが、それに惑わされずに座り込みで1日でも工事を止めましょう。それが今自分にできる唯一の直接行動です。でも、もう一つ直接行動がありました。それは裁判です。高江への愛知県警機動隊の派遣が違法であったと愛知県警に認めさせましょう。

沖縄は戦後の日本政治の悪が最も具体的に表れている場所です。辺野古新基地を作らせないことが日本の政治を変えることにつながっていくと思って活動しています。

辺野古コンサートを始めてからの3年間は自分にとってとても濃い3年間でしたが、これが始まりだと思っています。音楽活動と市民運動の橋渡しができればいいなあと思っています。